



エコアクション21

認証・登録番号0000666

2014年度版

エコアクション21

環境活動レポート

＝太陽光発電取組みの推移＝



2014年12月

シマリス(支笏湖畔)

環境と化学のコーディネーター

ソーダニッカ株式会社

本社:東京都中央区 支社:大阪市北区

支店: 札幌 仙台 名古屋 広島 高松 福岡

目 次

ご挨拶	1
環境方針	2
1. 事業の概要	3
2. 太陽光発電パネル販売取組みの推移について	5
3. 2013年度の環境活動	5
(1) 環境目標達成状況とその評価	5
1. 二酸化炭素排出量の削減	5
2. 紙使用量削減と再資源化の取組み	8
3. 廃棄物削減と分別回収	9
4. 節水と排水管理	10
5. グリーン購入	10
6. 化学物質の管理(ケミカルセンター)	11
7. 営業部門の環境貢献活動	14
8. 地域の環境保全活動への参加	16
(2) 環境関連法規等の遵守状況	20
(3) 代表者による全体の評価と見直し	21
4. 2014年度の環境目標と活動計画	22
5. ソーダニッカ㈱の環境管理組織	23
編集後記	24

ご挨拶

現在、世界的に環境問題がクローズアップされており、環境を無視して会社経営は考えられません。「環境と化学をコーディネートし、社会に貢献する」を標榜する当社としては、地域社会を含めた全ての皆様の信頼を得るために、環境保全に力を入れて活動していく所存です。



ソーダニッカ株式会社は、1947年の設立以来、ソーダ製品をはじめ無機・有機薬品、石油化学製品、合成樹脂製品などを取扱う化学品専門商社として長年にわたり国内産業界の発展をサポートしてまいりました。

全国をカバーするネットワークの構築により、仕入先、販売先から厚い信頼をいただく一方、か性ソーダなどの主力製品の安定供給をより確かなものにする目的から全国4ヶ所にケミカルセンターを設けております。

化学品は人々の生活を支えるあらゆる産業と深く関わっており、当社は基礎原料から、時代の変化とともに産みだされる多機能な新素材まで幅広い商品を取扱っております。

常に最新の情報を先取りし、積極的な提案や商品・サービスを提供すること、また環境対策にも積極的に取り組むことで社会に貢献することが、当社に課せられた使命だと受け止めております。

21世紀に入り経済のグローバル化は一段と進み、それに呼応するように国内の産業構造も大きく変化してきました。一方、人々の生活を豊かにしてきた文化は、天然資源を枯渇させ、二酸化炭素排出による地球温暖化という負の課題を派生させ、また国内では東日本大震災に起因した原発問題から将来のエネルギー問題が大きな課題となっております。

このような時代背景の中で、当社は国内では輸入品を含めた化学製品の販売をコア事業とし、太陽光発電ビジネスを中心とした環境関連製品を戦略商品に位置付けて成長を目指します。また巨大化するアジア市場を視野に中国・アセアン地域を中心とした営業展開を進めてまいります。

近年、社会の多様化とともに企業の社会的責任が問われるようになりました。当社は、コンプライアンス経営と環境配慮活動を積極的に推進することにより、あらゆるステークホルダーの信頼に応えていく方針です。

代表取締役社長 長洲 崇彦

ソーダニッカは、化学品専門商社として日本の基礎産業である化学工業にたずさわっており、化学工業薬品、合成樹脂原料・製品、産業用機器類の販売を行っている。また、主力薬品については、安定供給策として保管業務も行っている。

これらの事業をグローバルに展開する企業として、企業理念に掲げる『信用を第一』『社会に貢献する』企業でありつづけるために、地球環境保全への取組みをソーダニッカにおける最重要課題と位置づける。

ソーダニッカ株式会社は、企業経営を通じて地球環境へ配慮していくことを目的に、以下のことを実施していきます。

1. 事業活動を通じた地球環境保護への取組み

企業経営において環境負荷の低減に積極的且つ継続的に取り組んでいくために、自ら定めた目標に向かって全社員が自主的に行動する。また、営業活動においては環境負荷の少ない商品・技術・サービスを社会に提供するとともに、ミカセンターにおいては安全管理と環境保全に努めていきます。

2. 資源・エネルギーの効率的利用

資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を常に認識し、Reduce(廃棄物削減)、Reuse(再使用)、Recycle(再利用)、新エネルギー等の活用、グリーン購入に取り組めます。

3. 環境関連法規の遵守

関連する環境法規制・基準及びその他の同意する要求事項を遵守します。

4. 継続的環境改善への取組み及び地域社会との共生

環境保全に関する目標を設定し、取組み結果を見直すなど継続的な環境改善に取り組むとともに、地域社会との共生を実践するために社会貢献活動に積極的に参加していきます。

5. 環境活動の定着と環境情報の公表

全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境保全活動の定着、向上に努めます。また、環境行動計画及びその実施状況並びに環境関連情報については『環境活動レポート』に取りまとめて公表します。

更新履歴

2005年4月1日 制定
2008年4月1日 更新
2011年4月1日 更新
2012年5月2日 更新

2012年5月2日

ソーダニッカ株式会社

代表取締役社長 長洲 崇彦

1. 事業の概要

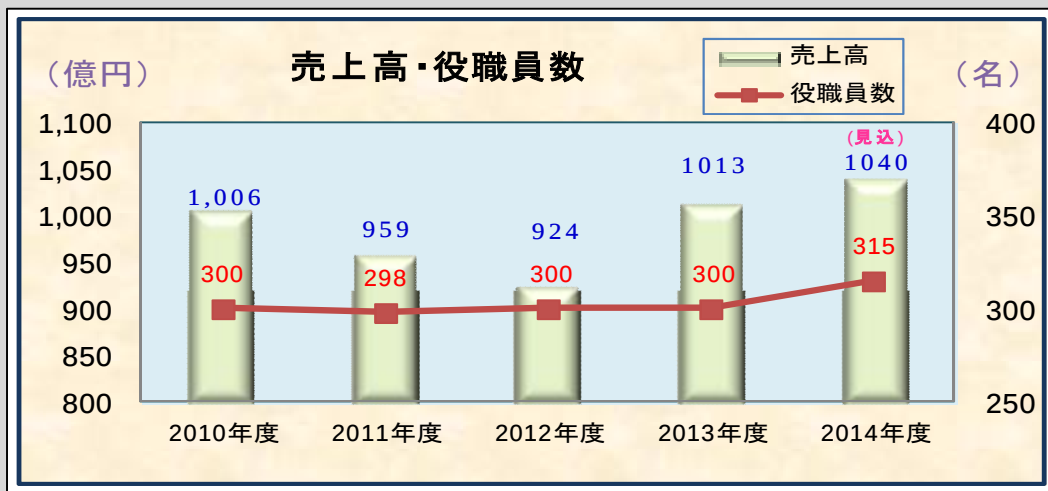
企業名 ソーダニッカ株式会社
URL: <http://www.sodanikka.co.jp>
本社所在地 東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント5F
代表者 取締役社長 長洲 崇彦
創立 1947年4月1日
資本金 37億6,250万円（2014年4月1日現在）
 （東京証券取引所 第一部上場）

◆環境管理組織 : ソーダニッカEMS委員会 事務局
 ・ **環境責任者** : 取締役兼常務執行役員 川那辺 弘
 ・ **環境担当者** : 業務部 池田 和之（事務局）
 電話: 03-3245-1818 FAX: 03-3245-1869

事業内容

化学品専門商社として、全国12カ所に事業所を配置し、主として化学工業薬品、石油化学製品、合成樹脂原料及び加工製品、電子材料、産業用機器等の仕入・販売を行っています。また、主力化学品については、取引先への安定供給を目的として国内4カ所に物流拠点としてケミカルセンターを保有し、サプライチェーン・ネットワークを構築しています。

◆事業規模（売上高と役職員数の推移）（2014年3月31日現在）



◆エコアクション21認証登録の対象範囲

◆事業規模（2014年4月1日現在）

1. オフィス（賃借）

	床面積(㎡)	役職員数(人)
本社(東京)	2,014	190
静岡営業所	204	10
大阪支社	446	27
札幌支店	271	10
苫小牧営業所	57	4
仙台支店	182	12
名古屋支店	255	13
広島支店	143	10
高松支店	235	11
三島営業所	166	4
福岡支店	334	13
宇部営業所	129	4
合計	4,436	308

※本社の床面積は、2013年8月5日
5F ワンフロア化により増加して
います。

* 赤字は昨年から変更点

全国12カ所の事業所

本 社(東京)・静岡営業所
大阪支社
札幌支店・苫小牧営業所
仙台支店
名古屋支店
広島支店
高松支店・三島営業所
福岡支店・宇部営業所

ケミカルセンター

釧 路 ケミカルセンター
七ヶ浜 "
富 士 "
広島大野 "

◆事業規模（2014年4月1日現在）

2. ケミカルセンター（社有）

* 赤字は昨年
から変更点

	事務所(㎡)	役職員数(人)	敷地(㎡)	倉庫(㎡)
釧路ケミカルセンター	75	2	7,770	—
七ヶ浜 "	84	2	10,040	1,011
富士 "	204	0	4,070	827
大野 "	117	3	2,612	264
合計	480	7	24,492	2,102

2. 太陽光発電パネル販売取組みの推移について

2009年:太陽光発電パネル販売の取組み開始
2010年:5月広島大野ケミカルセンターに実証用4.59kW太陽光発電パネルを設置
2011年:太陽光発電パネルの販売強化、他社製品を含め実績化進展
2012年:第3四半期より販売が本格化
2013年:発電事業者の旺盛な需要により販売増加

15頁に続く

3. 2013年度の環境活動

2013年度は2010年度を基準とする3ヵ年計画の3年目

- ・電 力 : 2013年度は7～8月に本社レイアウト変更工事に伴う床面積増加、及び9月以降床面積増加(+5%)により、電力量が増加しました。
- ・ガソリン : ハイブリッド車の導入以降も、アイドリングストップ等のエコドライブの啓蒙活動により、使用量が減少となりました。
- ・コピー用紙 : 新電算システム導入後3年目となりました。2012年度と比較し、社内管理資料等が増加しました。
- ・営業課題 : 太陽光パネルの販売数量が増加しました。

(1) 環境目標達成状況とその評価

1. 二酸化炭素排出量の削減

全事業所から排出する二酸化炭素は、2013年度は基準年度（2010年度）から△3.0%削減とする。

＜2013年度削減目標＞ 基準年度（2010年度）比で事務所毎に目標を定める。

【二酸化炭素】全事業所発生量の ▲3.0%とする。(※1)

【電 力】全事業所使用量の ▲3.0%とする。

【ガソリン】全事業所使用量の ▲3.0%とする。

二酸化炭素排出量は**オフィス（事務所）**と**ケミカルセンター（物流基地）**に分けて管理しています。

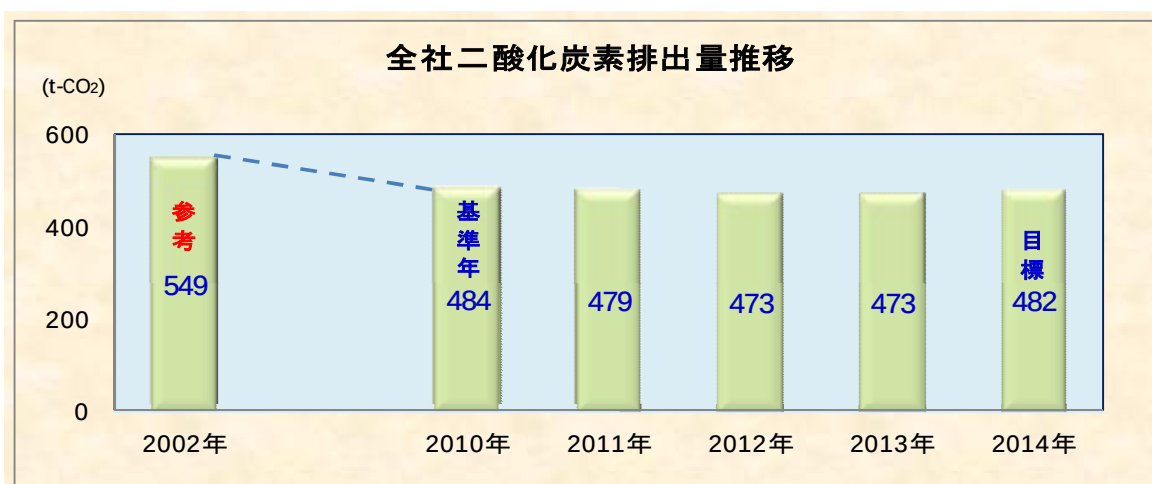
（※1）電力CO₂排出係数（単位：kg-CO₂/kWh）は2007年の各電力会社の数値を使用しました。

- ・北海道電力0.517、東北電力0.473、東京電力0.425、中部電力0.470、関西電力0.366
中国電力0.677、四国電力0.392、九州電力0.387
- ・他石油製品のCO₂排出係数は「EA21ガイドライン 2009年版」の数値を使用しました。

2013年度 全社二酸化炭素排出量

【目標】 469 t-CO₂ △3.0%（2010年度比）

【結果】 473 t-CO₂ △2.1%（2010年度比）（未達）



☆ 全社二酸化炭素排出量 = 事務所 + ケミカルセンター（二酸化炭素排出量の合計）

事務所（割合63%） 299 t-CO₂ +1.7%（2010年度比）

ケミカルセンター（割合37%） 175 t-CO₂ △14.6%（2010年度比）

要因：事務所は本社の床面積増加による電力消費で増加しました。

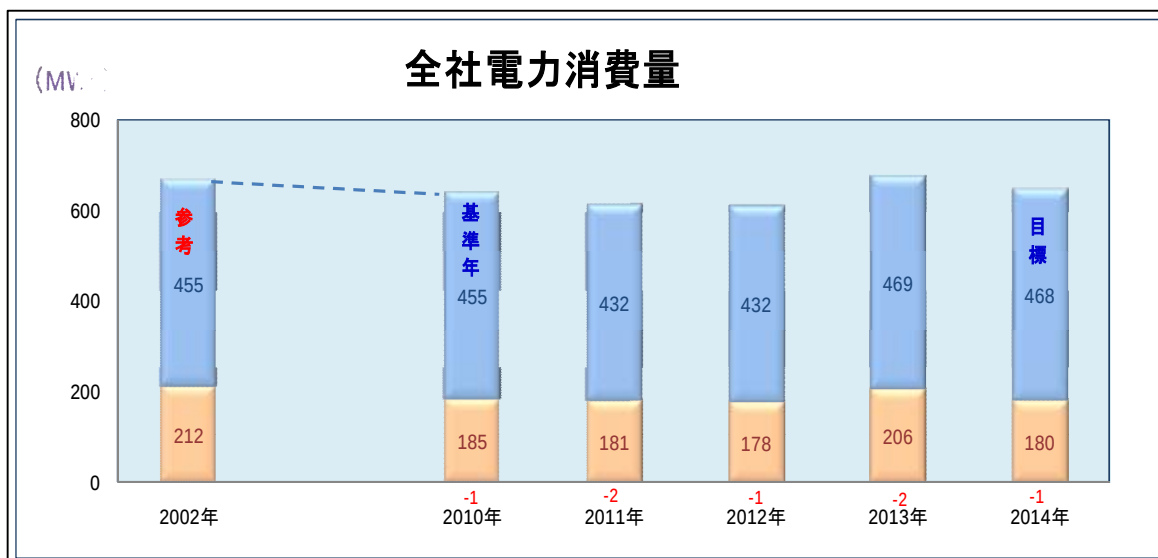
ケミカルセンターは七ヶ浜・富士ケミカルセンターが減少しました。

* 2002年度は当社がEMS委員会を発足させ、E A 2 1 認証登録に向けた作業を開始した年です。

2013年度 全社電力消費量

【目標】 622MWh △3.0%（2010年度比）

【結果】 674MWh +4.5%（2010年度比）（未達）



※ 上記グラフの内訳

■ オフィス電力消費量
■ ケミカルセンター電力消費量
■ マイナス数字 太陽光発電

☆ 全社電力使用量 = 事務所 + ケミカルセンター

事務所 (割合72%) 469MWh +3.0% (2010年度比)

ケミカルセンター (割合28%) 206MWh +8.1% (2010年度比)

要因：事務所は、本社レイアウト変更工事による床面積増加(7,8月 +14%)と工事終了後、9月以降の床面積増加(+2%)による電力消費で増加しました。ケミカルセンターは、釧路・大野ケミカルセンターが増加しました。

☆ 大野ケミカルセンター 太陽光発電量 (2013年4月1日～2014年3月31日)

累計発電量 5,990 kWh 累計売電量 1,628kWh

CO₂換算量 4.1t-CO₂

【設置】2010年5月末日

【場所】大野ケミカルセンター (広島県廿日市市)

【能力】4.59kW

【製品】ソーラーフロンティア(株)製 CIS系

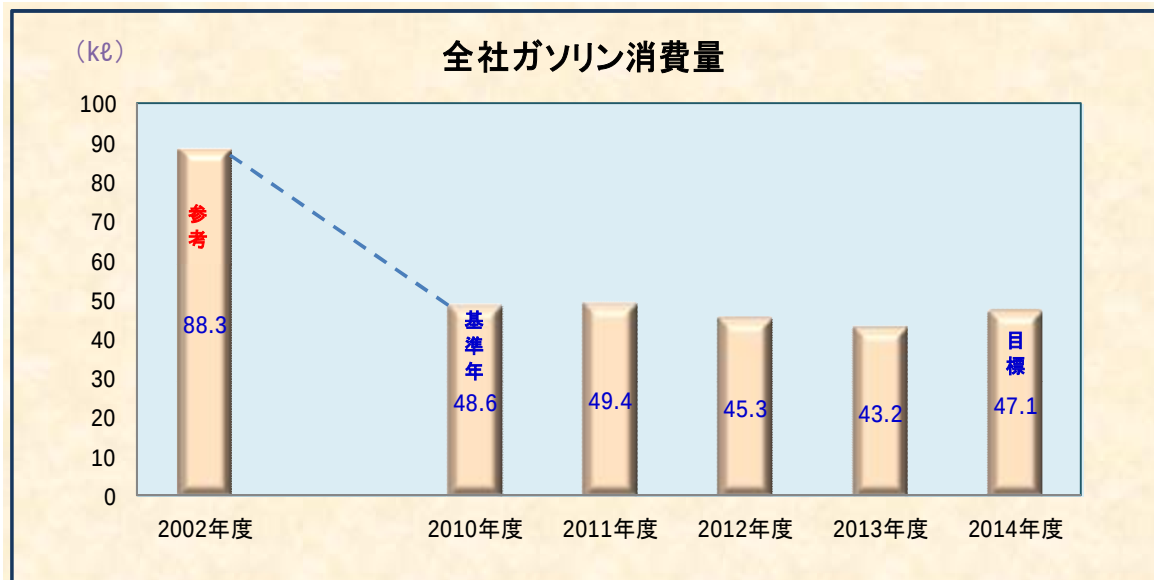
【電力会社】中国電力(株) *CO₂排出係数 0.677t-CO₂/kWh (2007年度)



2013年度 全社有車ガソリン消費量

【目標】 47.1kℓ $\Delta 3.0\%$ (2010年度比)

【結果】 43.1kℓ $\Delta 11.1\%$ (2010年度比) (達成)



要因：全社有車のガソリン消費量は、各事業所において、ハイブリッド車の導入以降も、アイドリングストップ等のエコドライブの啓蒙活動により、使用量が減少となりました。

2. 紙使用量削減と再資源化の取組み

(1) コピー用紙は、全事業所、全量「環境配慮型製品」とする。

※「環境配慮型製品」とは、当社「グリーン調達ガイドライン」を満たした商品とする。

(2) 排出する紙資源は種類ごとに計量し、リサイクルに供する。

(3) 機密を含む長期保存書類は、100%リサイクルに供する。

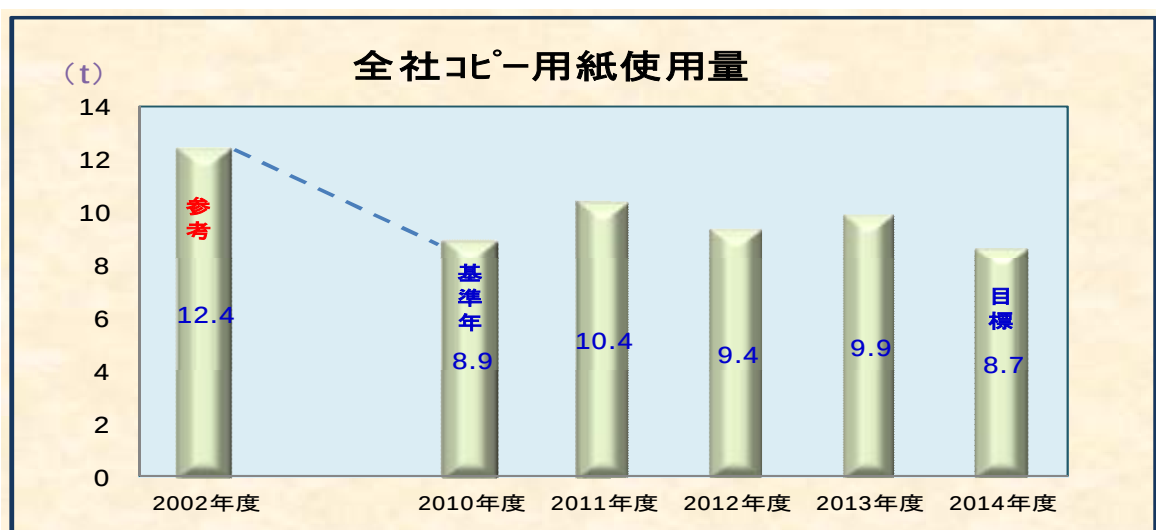
<2013年度目標> 2010年度比で事業所ごとに目標を定める。

【紙使用量】全事業所として2010年度比3.0%削減とする。

2013年度 全社コピー用紙使用量

【目標】 8.7 t $\Delta 3.0\%$ (2010年度比)

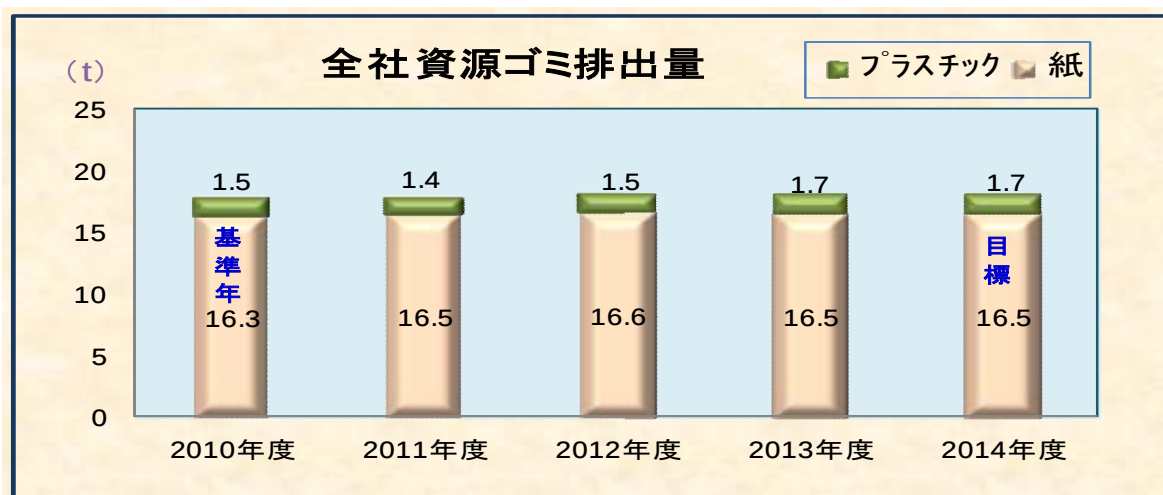
【結果】 9.9 t $+10.7\%$ (2010年度比) (未達)



要因：コピー用紙は、社内管理資料等による使用量が増加しました。

3. 廃棄物削減と分別回収

- (1) 排出する一般ゴミは分別・計量し、再資源化、削減に努める。
- (2) プラスチック類は計量し、再生可能なものはリサイクルに供する。
- (3) PETボトルのキャップについては、エコキャップ回収活動を推進する。



2013年度 全社資源ゴミ排出量

【目標】 18.1 t ±0.0% (2012年度比)

【結果】 18.1 t +0.3% (2012年度比) (未達)

【資源ゴミ】 { 紙資源 (割合92%) 16.5t △0.7% (2012年度比)
プラスチック (割合 8%) 1.6t +11.8% (2012年度比)

プラスチックの排出量が多少増加した以外は、ほぼ昨年並みの数字となった。

*エコキャプの回収量は、21.7kg (2013.1.1～12.11) ポリオワクチン11人分に相当。

4. 節水と排水管理

- (1) 賃借オフィス(事務所)においては、ビル管理会社等と協力して節水に取り組む。
- (2) ケミカルセンター、自社オフィスでは、製品稀釈用水と生活水を区分管理し、生活水は前年実績以内に使用量を抑える。
- (3) ケミカルセンターは、水質汚濁防止法の特定施設基準（非該当）を自主基準として管理し、排水量を把握する。

【結果】

ケミカルセンター生活水使用量 : 1,065t 前年比 △88t
〃 排水量 : 997t 前年比 △552t

2013年度の生活水使用量・排水量ともに、減少に転じました。

5. グリーン購入

印刷物、事務用箋、封筒、名刺などは環境配慮型製品を使用する。

【結果】 グリーン購入はガイドラインに従って管理しております。

コピー用紙その他オフィスで使用する文具は、グリーン調達ガイドラインに則り購入しました。

【全体評価】

オフィス電力

2013年度の消費電力は、本社4階フロアの5階フロアへの統合作業と以降の床面積増加により、増加いたしました。

ガソリン消費

ハイブリッド車の導入以降も、アイドリングストップ等のエコドライブの啓蒙活動により、減少しました。

コピー用紙消費

社内管理資料等が増加となりました。

廃棄物と分別

紙ゴミ・プラスチックゴミ共に排出量はほぼ横ばいとなりました。

節水と排水

オフィスの節水はビル管理会社と協力し取り組んでいます。
ケミカルセンターでは無駄な洗車や散水を止めています。

グリーン購入

コピー用紙は「グリーン調達ガイドライン」に則り環境配慮型製品を使用しています。

6. 化学物質の管理（ケミカルセンター）

- (1) 化学物質の管理は、社内規程（手順、管理基準等）に従って行う。
- (2) ケミカルセンターでは、防災マニュアル等に従い、環境保全、災害防止に努める。

ケミカルセンターは、毎月の安全会議、年一回の防災訓練で安全管理をしています。
秋に本社及びケミカルセンターの関係者が一堂に会した全国物流管理者会議を実施し、安全面や設備面、コンプライアンス等の問題点を話し合い、情報の共有化を行い、事故防止に努めています。

☆☆☆ケミカルセンターの化学物質☆☆☆

ケミカルセンター（物流基地）

当社は**毒劇物*1)**の船受け可能な物流基地を全国4ヶ所（釧路・七ヶ浜・富士・大野）に設置し、全国の物流ネットワークを構築しております。

安全面に関しても構内や輸送上での事故防止のため、定期的な安全会議や防災訓練、全国物流管理者会議を実施して、安全管理教育の徹底を図っています。

*1)毒劇物：「毒物及び劇物取締法」で規制される毒性や腐食性が強い化学物質

ケミカルセンターで扱う主な化学品を紹介いたします。
一般家庭ではあまり馴染みがありませんが、産業界ではよく使用される薬品です。

<か性ソーダ>

無色の強アルカリ性液体です。食塩水を電気分解して製造される。

主な用途：化学繊維、製紙、パルプ、化学薬品、食品工業、石鹼

<塩 酸>

塩化水素の水溶液です。酸性が強く、多くの金属を溶解し、塩化物を作る。

主な用途：化学薬品、アミノ酸、グルタミン酸ソーダ、酸洗用

<硫 酸>

無色の酸性の液体です。

主な用途：肥料原料、化学繊維、化学薬品、金属製錬

☆☆☆ケミカルセンターの防災訓練☆☆☆

釧路ケミカルセンター

<2013年12月5日(木)> (構内)：所長・他2名

<想 定> 構内のローリー出荷配管からピンホールによる硫酸漏洩

<対 処> 事故発生 → バルブ閉止→土嚢配置→砂散布
→吸収した砂回収



七ヶ浜ケミカルセンター

<2013年9月25日(水)> (構内) : 所長・他5名、運送業者2社・4名

<想 定> 事務所、商品倉庫の漏電が原因で火災発生

<対 処> 火事発見、周囲へ注意喚起、初期消火訓練、通報訓練



初期消火訓練



通報訓練

富士ケミカルセンター

<2013年9月26日(木)> (構内) 支店長・他11名、運送業者3社7名

<内 容> 心肺蘇生の為の胸骨圧迫とAEDの使用方法について

(富士市西消防署・応急救護指導員による救命入門コース)



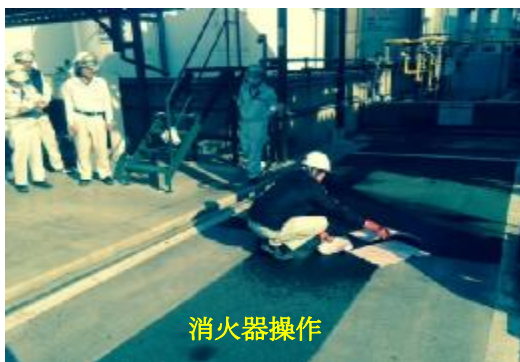
全体説明



胸骨圧迫訓練

大野ケミカルセンター

<2014年3月24日(月)> (構内) センター長他1名、運送業者1社8名
<想 定> 構外における少量の薬品漏洩時の回収作業方法の訓練
<内 容> 的確かつ迅速な措置と情報伝達の確認
イエローカードの内容習熟
(有害性、漏洩拡散防止措置、緊急通報)



消火器操作



説明

☆☆☆営業部門の環境貢献活動☆☆☆

7. 営業部門の環境貢献活動

化学分野における3R推進、環境配慮型の製品・技術の開発・普及に努め、その取組については環境活動レポートで公表する。
また、PRTR法該当化学物質については年間販売量の把握に努める。

当社は3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を推進しております。
今回は太陽光発電パネルについて紹介いたします。
また、PRTR法(化管法)該当化学物質について説明いたします。

太陽光発電パネルについて

①CIS系（ソーラーフロンティア(株) 製）を主に取り扱いっております。

②CIS系太陽光パネルの詳しい特徴

＜特徴＞

- ・高温時の出力ロスが少ない
パネル75℃でシリコン単結晶系より約5%良好
- ・一部の影による電力低下が起りにくい
素子の起電圧が高く、パネル内素子は並列接続
- ・製造時出力より、稼動下で出力が上昇
- ・モジュール出力保証20年
- ・シリコン系に比べ設置面積を必要とする

【連絡先】 ご相談は本社・環境資材部まで：03-3245-1846

☆☆☆太陽光発電パネル☆☆☆

納入実績



施主：株式会社井沢鉄工所 様
納入月：2014年1月
引渡月：2014年1月
場所：兵庫県 姫路市
設置容量：495.9kw
施工会社：三菱重工冷熱株式会社 様



施主：大明化学工業株式会社 様
納入月：2013年10月
連系月※：2014年3月
場所：長野県上伊那郡
設置容量：本社社屋屋根 17.325kw
倉庫屋根 32.67kw
施工会社：株式会社菱興電機 様



※ 連系とは、電力会社の電線に繋ぐことです。

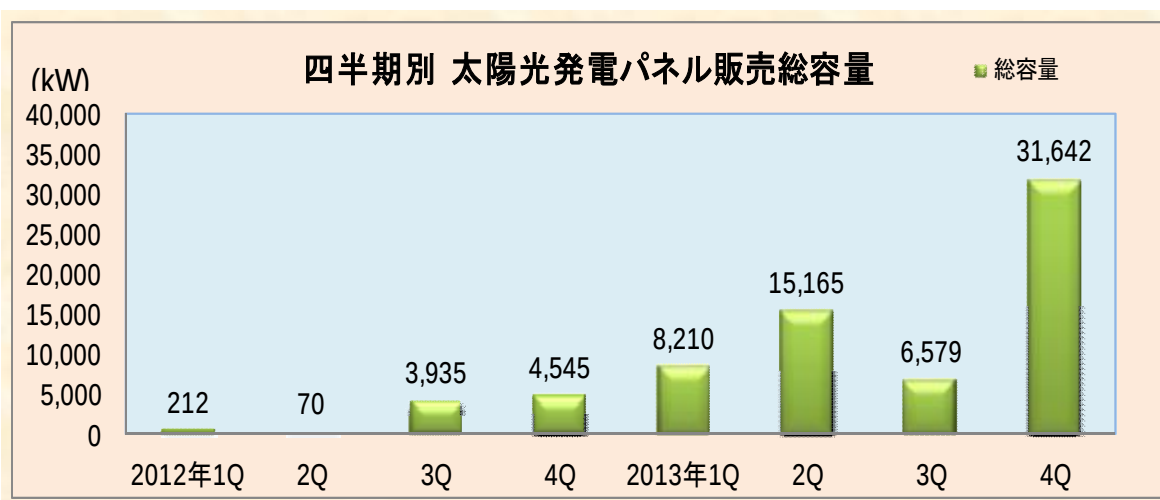
☆ 太陽光発電パネル販売総容量 (2012年4月～2014年3月末)

【増加要因】 2012年度第3四半期より販売量が増加

①国の買取制度の充実（毎年変動あり）により導入社数の増加

「再生可能エネルギー特別措置法」（略称）

「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」（平成23年法律108号）



☆☆☆PRTR法該当化学物質について☆☆☆

2013年度「PRTR法該当物質年間販売量について」

※ 2013年度の排出実績はありませんでした。

※ 2013年度の販売量を把握しました。

・ PRTR法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」
（平成11年法律第86号）※化管法

・ 該当化学物質：第一種462物質、第二種81物質

※「エコアクション21 ガイドライン2009年版」による。

【結果】

- ・ 第一種指定化学物質：75物質が該当（462物質中）昨年より1物質増
- ・ 第二種指定化学物質：2物質が該当（81物質中）昨年より2物質増

☆☆☆事業所ごとの環境保全活動紹介☆☆☆

8. 地域の環境保全活動への参加

事業所ごとに、地域環境活動に参加、協力や支援を行う。

2013年度もほぼ全ての事業所で清掃活動や植林等の環境保全活動を実施しました。

本社：「まちかどクリーンデー」
毎月10日



本社：「ゴミゼロクリーンデー」
2013年5月25日



大阪：「大阪マラソン(クリーンUP)作戦」 2013年10月22日



札幌：「ラブアース・クリーンアップ」 2013年4月14日



仙台：「広瀬川1万人プロジェクト」
2013年4月21日



静岡：「田子の浦みなと祭り」他
2013年7月7日



名古屋：「とだがわの森感謝祭」
2013年10月27日



広島：「ゴミゼロ・クリーン
ウォーク」他 2013年6月9日



高松：「中央通り一斉清掃」
2013年6月6日



三島：「四国中央市クリーンデー」
2013年7月7日



福岡：「ラブアース・クリーンアップ
2013」他
2013年6月16日～



宇部：「市民ボランティアによる
ガーデンづくり」
2013年6月29日



☆☆☆他の環境活動☆☆☆

全社：環境啓蒙活動の一環で「環境社会検定試験」の受験を推奨

1) 「環境社会検定試験」(ECO検定)について

主 催：東京商工会議所

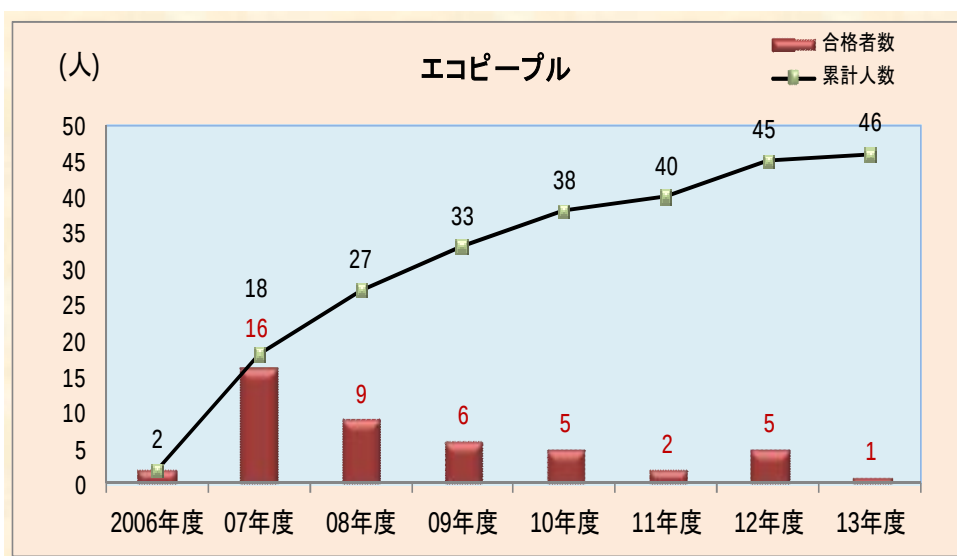
成り立ち：世界的な環境意識の高まりに対し、
説明できる人材育成のため「環境
教育の入門編」との位置付けで開始

第1回試験：2006年10月15日
2007年以降 年2回実施

2) 「エコピープル」

合格者：合計46名





(2) 環境関連法規等の遵守状況(最近3ヶ年)

「環境関連法規」については、毎年4月に「ecoBRAIN」*1で法律の改訂内容を確認し「法令遵守状況チェックリスト」を更新し、各部店は6月に遵守状況を確認しました。

(*1:「ecoBRAIN」第一法規(株)の「ネット環境法令管理システム」)

【違反等】 違反行為、行政等からの指導、苦情及び訴訟は全くありませんでした。

【当社に該当する環境法令集】

法令

目的

<ケミカルセンター関係>

[大気汚染防止法]	ばい煙の発生
[水質汚濁防止法]	有害物質の排出、浸透防止、漏洩事故時の報告
[廃棄物処理法]	廃棄物の処理
[労働安全衛生法]	役職員の健康と安全確保、化学物質の取扱い
[消防法]	建物防災、危険物の保管管理、消防活動阻害物質
[毒物劇物取締法]	毒物劇物の製造・保管管理、安全輸送
[海洋汚染防止法]	船受入時汚染防止、有害物質貯蔵設備の管理

<営業関係>

[毒物劇物取締法]	毒物劇物の輸送・販売
[高圧ガス保安法]	高圧ガスの輸送・販売
[消防法]	危険物の輸送
[化管法](PRTR法)	SDS(安全情報表)の配布
[化審法]	新規物質の販売

<輸入関係>

[毒物劇物取締法]	毒物劇物輸送時の安全・標記
[化審法]	一般化学物質の輸入数量の把握・報告

<総務関係>

[労働安全衛生法]	役職員の健康と安全確保
[健康増進法]	事務所内分煙

<全社関係>

[省エネルギー法]	エネルギー使用の効率化(当社非該当)
-----------	--------------------

【2014年度登録簿への追加及び項目追加】

[小型家電リサイクル法]を追加

【2013年度登録簿から削除】

新たに削除した項目はありません。

(3) 代表者による全体の評価と見直し

『社長による全体の評価』

ガソリン消費量の減少については、エコカー導入後もエコドライブ推進活動により、アイドリングストップ等の意識が浸透してきたことの表れであると考えられる。

電力消費量と紙使用量については、事業の拡大に伴い、今以上の大幅な削減は困難と考えられる。会社全体での思い切った施策が必要であり、長期目標の見直しも含め再検討する必要がある。

外部監査の指摘事項であるグリーン購入については、数値化が可能かどうかを検討していきたい。

内部環境監査の方法を見直して2年目になるが、高いレベルでの環境活動の維持管理を継続していきたい。

『社長による見直しと指示事項』

- ・ **環境方針** 本年度は変更はしない。
- ・ **実施体制** 部門長、環境担当者、環境委員を新たに任命する。
ケミカルセンターについては、引き続き各支店で管理することにする。
- ・ **環境経営マニュアル** 内部環境監査の結果を見ても指摘事項は少なく、今後も実監査と書類監査を交互に実施していくこととする。
- ・ **環境活動レポート** 太陽光発電パネルについては、販売量の増加を分かり易く記載すること。グリーン購入については、数値化が可能かどうかの検討を開始すること。

4. 2014年度環境目標と活動計画

《環境目標》

1. <二酸化炭素排出量削減>

- ・2014年度の全事業所の排出量を3%削減（2010年度比）
- ・中期目標（3ヵ年）は2017年度迄に1%削減（2014年度比）
- ・長期目標（10ヵ年）は2024年度迄に3%削減（2014年度比）

2. <紙使用量と再資源化>

- ・2014年度の全事業所の使用量を3%削減（2010年度比）

3. <廃棄物削減と分別回収>

- ・紙資源は種類ごとに計量しリサイクル原料にします。
- ・長期保存書類は、100%リサイクル原料にします。
- ・プラスチック類は計量し、可能なものはリサイクルに供します。

4. <節水と排水管理>

- ・賃借ビルでは、ビル管理会社と協力し節水に努めます。
- ・ケミカルセンターでは製品用と生活水を分けて把握管理をします。
- ・ケミカルセンターは、排水量を把握し、排水基準を遵守します。
- ・生活水と排水の使用量、排出量は原則前年を超えないとします。

5. <グリーン購入>

- ・印刷物、封筒等は環境配慮型製品を使用します。

6. <化学物質の管理>

- ・化学物質の取扱いは安全管理、環境保全に努めます。

7. <営業部門の環境貢献活動>

- ・3R（削減・再使用・再原料）の推進及び新エネルギー等の活用を積極的に提案します。
- ・環境配慮の製品・技術の開発・普及に努めます。
- ・取組み内容を環境活動レポートにて公表します
- ・PRTR法該当化学物質の年間販売量を把握します。

8. <地域の環境保全動>

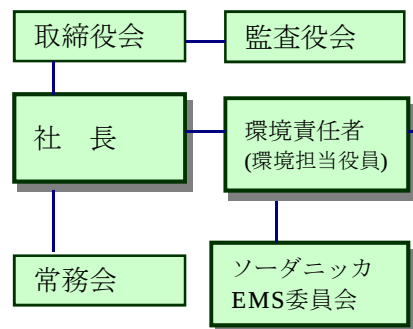
- ・事業所ごとに社会貢献活動などを通して、地域社会との共生に努めます。

《マニュアルの変更点》

- ・人事異動に伴い、環境責任者及び事務局員、部門長、環境担当者、エコリーダー、環境委員を変更します。

5. ソーダニッカ（株）環境管理組織

2014年度 (2014年4月1日付)



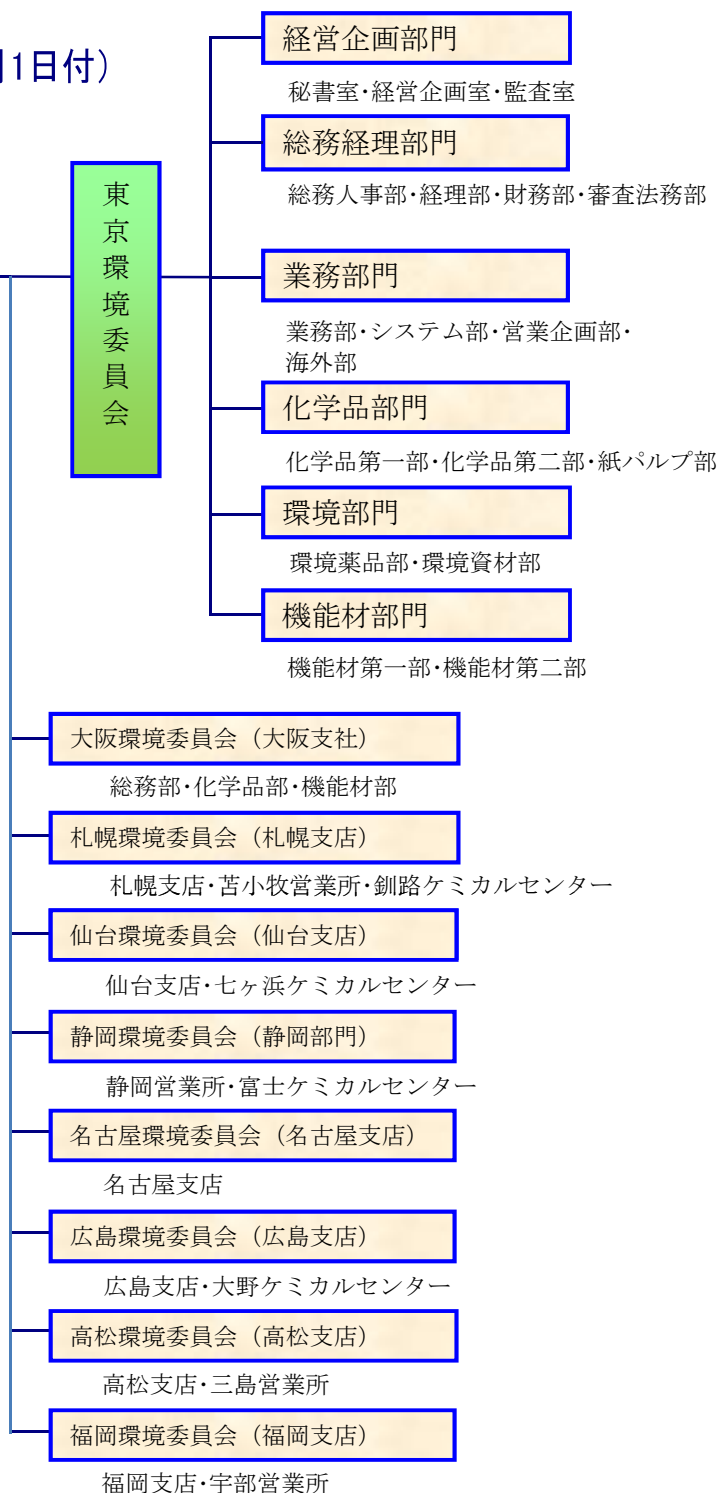
内部環境監査制度

所定の研修を受講し、試験に合格した者の中から社長に任命された監査員が担当する。

内部環境監査要領により各部門（支社、支店を含む14部門）ごとに年1回以上実施する。

監査員は、社長、環境責任者の直轄となっている。

東京環境委員会は、本社6部門の集合体とし、各部門の目標及び本社全体の目標達成に向けて連携していく。



編集後記

最近、様々な業種において「環境に対する配慮」の取組みが行われております。例えば航空業界においては、燃費効率の悪いジャンボ機から、同機より20%も燃費効率が良く、また低騒音である航空機への切替えが行われ、また銀行においても地球環境の維持向上に繋がる商品の開発やソリューションを提供する取引先に対する積極的な融資の実行等々…。これらはまさに業種を問わない、「持続可能な社会の実現」に向けた取組みと言えると思います。

当社においても今回の環境活動レポートにおいて、太陽光に関する取組みにつきご報告させて頂きました。当社の思いも同じく「持続可能な社会の実現」です。現代と同じような美しい地球を維持し、そして住み易い社会環境の実現に向け、「環境に対する配慮」を今後とも継続的に行っていきたいと思っています。

Y.K.

表紙の写真について

シマリスは主に北海道に生息し、木の実以外にもバッタ等の昆虫も食べる雑食性の動物です。シマリスの木の実を収穫し、貯蔵する習性が苗木の定着と森の生態系の維持に重要な役割を担っています。

(撮影 札幌支店：鈴木幹明 2014年5月)

環境活動レポート（2014年度版）

発行 2014年12月 1日

ソーダニッカ株式会社 EMS 委員会

〒103-8322 東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント

電話：03-3245-1818 fax 03-3245-1869

URL：<http://www.sodanikka.co.jp>

人に、自然に、やさしい環境を
化学のチカラによって
明るい未来を創造します。

人に美しい自然を子供たちに
残すため、私たちは
人と環境との調和を
化学の多様性を駆使し、
チャレンジしてまいります。



ソーダニッカ株式会社

東京都中央区日本橋3-6-2 TEL03-3245-1818

この環境活動レポートは、再生紙を使用しています。